

さねさし



発行 文化財愛護
平成19年3月10日 シンボルマーク
相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

～「さねさし」とは、相模国の枕詞です～



古民家園が楽しい！

大盛況の「お餅つきと早春の草花」

1月28日（日）古民家園において、恒例の「もちつき」と近辺の「早春の草花」の観察をおこないました。

近年では各家庭で、正月や節句に臼での「もちつき」風景も見られなくなったことから、今回市民の皆さんに古民家園でのゆったりした時の流れのなかで臼と杵を使った昔ながらの「ペタン、ペタン」の音を響かせての「もちつき」の体験を通して、また早春の野草を観察し自然や季節と結びついたかつての生活文化について理解を深めてもらい、これからも伝統の一環として伝えていきたいとの思いを込めました。

例年はきなこ餅を作っていましたが、今回は衛生面での配慮もあり、急遽おしるこを作ることになりました。

参加者全員にマスクを配布し、調理に関わる実行委員はエプロン、三角巾、マスクはもちろん、ゴム手袋着用のいでたちでのおしるこ作りでした。

「早春の草花」の観察においても、参加者が



目次

- ①・古民家園が楽しい！
大盛況の「お餅つきと早春の草花」
- ②・文化財パトロールについて「南部班」
・市内文化財めぐりに同行して
- ③・亀ヶ池八幡宮・吉川啓示画伯奉納の十二支図
・子安地藏のこと
下九沢の子守観音 上鶴間の子育地藏
- ④・伝説の武将・淵辺義博のゆかりを訪ねて
・文化財保護課からのお知らせ

講師の先生の七草の由来や特徴、観察マナーなどの話に聞き入っていました。

参加者数は当初の予想を大きく上回り200名を越す大盛況で材料等を買足して「うれしい悲鳴」となりました。

これからも皆さんが気軽に立ち寄れるような行事を続けていきたいと思っています。

(北部班 西田)



文化財パトロールについて「南部班」

文化財調査・普及員の活動の一つとして、年間2回の「文化財パトロール」があります。南部班担当地域では、12カ所をパトロールしています。

- ・1回目……目視による保護状況の観察。
- ・2回目……定点からの写真撮影等による記録。

上記2点は、全ての班が基本的におこなっているものです。南部班では、全員そろってパトロールすることにしています。そのほうが、観察もより確かなものになり、課題等も共有できるからです。

また、文化財は、他地域とのいろいろな繋がりの中で存在しています。それで、班員の研修も兼ねて、独自の活動として下記のような実地踏査もしてきました。

- ・新戸一里塚～木曾一里塚間、2回実地踏査
 - ・新戸一里塚～海老名市国分寺跡間、2回実地踏査
- このような活動から、お互いに確認し合えることがいくつかあります。
- ・文化財保護状況における異常（わずかな変化も）の早期発見
 - ・定期パトロールのために文化財所有者との交流関係構築も必要
 - ・市内で埋もれている文化財の発見も可能ではないか（実地踏査の大切さ）

その他、文化財調査・普及員として

- ・活動のため自己研鑽も要求される
- ・活動を通じて地域社会に知己ができ、そのうえ地域にも貢献できる
- ・自分自身を高める生涯学習になる

これまでの活動から、上記のようなことをあげることができると思っています。

（南部班 白柳・千葉）



市内文化財めぐりに同行して

10月18日（水）に相模原市教育委員会主催の「市内文化財めぐり」に同行しました。JR相模原駅北口集合で、参加者と思われる人が集まっていました。いっしょに参加者の案内をする予定の橋本さんを見つけたので挨拶をして一息つききましたが、それまでは急遽同行することになり緊張していました。間もなくバスが来て乗り込みました。文化財保護課の担当職員も含め、総勢21名でした。

初めは村富神社の「獅子頭」で、初めて実物を見ましたが時代を感じました。

龍像寺では、江戸時代の淵野辺村領主岡野氏の墓地と徳本念仏塔を見ました。

旧陸軍通信学校将校集会所では、当時の軍の威光を感じました。

史跡「勝坂遺跡」では、縄文中期の大集落跡と説明され、驚きと同時に何も無いという声があがりました。発掘調査の後埋め戻したと答えると、なるほどとうなずき納得したようでした。

幕末の和洋折衷住宅「中村家住宅主屋」を見ました。

無量光寺山門では詳しく説明を受け、高麗門の風格に見入る人が多かったです。参道両側の石碑の中の一基が、市登録文化財に登録されている徳本念仏塔です。右側には芭蕉の句碑があり、私が説明を担

当しました。

旧青柳寺庫裡が復原されている古民家園では保存・普及のために色々な事業が行われていることと、茅葺き屋根や竈（かまど）に興味が集まりました。

最後は下九沢八坂神社の芭蕉句碑と六地藏の徳本念仏塔であります。芭蕉句碑は私が説明を担当しましたが、風化した句を読もうと覗き込む人もいて、関心が高かったです。徳本念仏塔は高さ43cmと小さく、赤い涎（よだれ）掛けがかけられ、地藏と見られていたと聞き、笑い声があがりました。「六地藏が七地藏に」と疑問が起きないのが不思議です。

とにかく参加者の声は、「車で通っていたら絶対に見ることは無い場所もあり、本当に参加してよかった、これからも機会があれば参加したい」という声を聞き、文化財の大切さを痛感した一日でした。

（北部班 秩父）

みんな真剣にメモを取りながら聞き入っています



亀ヶ池八幡宮・吉川啓示画伯奉納の十二支図

上溝の亀ヶ池八幡宮は、南北朝時代の暦応四年（注1）の銘のある木像神像坐像（市指定文化財）で知られるように、古くから北相模の農耕開拓の守護神として信仰を集めてきました。また、9月に行われる例大祭には市指定無形民俗文化財の「番田の神代神楽」が奉納されます。

ところで、八幡宮の拝殿の長押の上に、地元出身の日本画家・吉川啓示画伯（注2）の「十二支図」が飾られているのをご存知でしょうか。平成13年の神楽殿竣工を記念して同画伯が奉納されたものです。干支ごとに1枚づつ額に納められて飾られています。いずれも穏やかな筆致で画伯の人柄が偲ばれます。

なお、見学なされたい方は、必ず前もって同八幡宮社務所（TEL：751-1138）にお申し込みください。

（注1）ご神像の背面に「暦応二二年正月」と刻まれている。西暦1341年

（注2）日本画家。明治43（1910）年生まれ。片野湘雲画伯、その後前田青邨画伯に師事。院展に61回入選。昨年1月、享年97歳で逝去

（西部班 嶋田）



子守・子育地蔵のこと

下九沢の子守観音

下九沢 県道厚木城山線の中村バス停を西方鳩川よりに入った民家の前に、観音菩薩座像が安置されています。伊藤家の三代前になる明治初年頃、養蚕で多忙な時期に伊藤家の赤ん坊を子守に頼んだが、誤って庭先に掘られた井戸に2人とも落ちて亡くなったと伝えられています。

一方近所の方の話によると、子どもはおばあさんがおんぶしていたともいいます。伊藤家は2人の死を不憫に思い、死者に対する追善供養として、この様な子どもを抱いた観音菩薩を建立したそうです。現在でも花や玩具が絶えることはありません。（北部班 駿河）



たくさんの花や玩具が飾られています

上鶴間の子育地蔵

台座の上のふかふかの座蒲団に座ったお地蔵様が、上鶴間の地蔵様の坂のお堂に祀られています。今から250年前の宝暦8（1758）年10月に造られた子育（子安）地蔵で、左腕に赤子を抱いた45センチ程の石の座像です。顔立ちもはっきりしています。

いつの頃からか着物が着せられ、今は3枚の着物に包まれています。

肩をすっぽりと被うフリルのついたよだれかけが印象的です。

毎年10月にお念仏があり、お堂の前でおこなわれますが昔はお地蔵様をお座敷に移してお祀りしたそうです。

現在6人の女性が順番に当番をして大切に守られています。（東南班 佐藤）



伝説の武将・淵辺義博のゆかりを訪ねて



淵辺義博は足利尊氏の弟直義の家臣で、淵野辺村の地頭であったと伝えられています。

中先代の乱（建武2・1335年）の際、後醍醐天皇の皇子・護良親王を鎌倉で殺害したとされています。

大日堂は、中先代の乱の折、このお堂の近辺での合戦で、その戦死者を供養するために建てられたとのこと。龍像寺は、淵辺義博が境川で暴れる龍を退治し、その時使った矢じりと龍骨の一部が寺宝になっています。

縁切り榎は、淵辺義博が境川で護良親王を殺害せず、石巻に落ちのびる際に妻子とこの榎の下で縁を切ったと言われています。この榎のすぐ近くにある中里橋は別名「わかれ橋」と呼ばれており、ここで妻子に最後の別れをしたとされています。

約2キロのんびり歩いて1時間、帰りは境川の遊歩道を川風とともに古淵駅まで戻るのも一興かと思います。（東部班 森）

<おすすめコース>

古淵駅→①大日堂→②鹿島神社→③かわじま坂→④当麻山道→⑤龍像寺→⑥縁切り榎→⑦わかれ橋→バス停・ニュー相模団地→古淵駅又は淵野辺駅

* 詳細につきましては、古淵駅周辺の文化財案内板が古淵駅前に設置されておりますのでそちらを御参照下さい。また、ご要望があれば、古淵駅周辺をはじめ各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

次号以降も各地区の文化財マップを紹介します。

文化財保護課からのお知らせ

史跡勝坂遺跡の発掘調査が無事終了

去る10月20日（金）から12月28日（木）まで、史跡勝坂遺跡で相模原市教育委員会主体の発掘調査（学術調査）がおこなわれました。

今回が第2期6年にわたる発掘調査の最終年であり、今後の史跡整備に向けて縄文時代中期（約5,000年前）の複数の住居跡の構造等の解明に努めました。

史跡田名向原遺跡公園がまもなくオープン!

今年度整備工事をおこなっていた「史跡田名向原遺跡公園」が平成19年3月31日（土）に開園します。

この公園は市内初の遺跡公園で、園内には国内最古といわれる後期旧石器時代末（約2万年前）の住居状遺構や、周辺で発掘された縄文時代の竪穴住居及び谷原12号墳が復元され、遺跡の地形を示す地層展示とともに公開されます。開園日には記念イベントを開催しますのでぜひご来園ください。

文化財調査・普及員通信「さねさし」をカラーで!

文化財調査・普及員通信「さねさし」の創刊号から6号までを相模原市のホームページで見ることができます。カラー版になっていて、以下の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ→観光・文化（一覧を表示）→文化財・史跡→文化財調査・普及員

→通信「さねさし」第1号～第6号 * 本号も近日中に配信する予定です。

発行連絡先 相模原市教育委員会文化財保護課 電話 042-769-8371